2013 年度 海外研修報告
College of Veterinary Medicine, Auburn University, Auburn, Alabama

農学部獣医学課程
5 年　緒勝由希

1. 受け入れ先の名前及び住所
   オーバン大学の ICT（小動物緊急医療）のレジデントである Dr. Kuo と、小学校の先生である Ms. Kuo のご夫妻の家に滞在させて頂いた。
   825 Bristol Ct, Auburn, AL 36832

ローテンションメンバーと一緒に（左から 2 番目が筆者）

2. この留学の動機または理由
   ・もともと米国に興味があったため、今回のプログラムはとても良い機会だと思った。
   ・日本ではよく海外の獣医学は進んでいると聞くが、本当にそうなのか、また本当だとすればどのような部分が優れているのか実際に自分の目で見てみたいと思ったから。
   ・岩手大学で得た自分の知識や経験と，オーバン大学の学生の知識や経験がどのように違うのか、ローテーションに参加することで知ることができると思った。
   ・自分の英語がどのくらい通用するか試したかった。

3. 滞在中の経験

(1) 2012 年 9 月 2 日
Large Animal Ambulatory System。大動物往診サービスのローテーションに参加。診療する動物は主に馬。学生が問診、身体検査、治療、投薬、治療費の計算、記録などほとんど全ての作業を行っていることと、Emergency duty もあることが驚きだった。馬の臨床に関する知識が少なくて、ディスカッションについていけなかったのが大変だった。

(2)　2013 年 9 月 3 日～9 月 10 日、9 月 12 日～9 月 13 日
Dairy Medicine 乳牛のローテーションに参加。学外からの患畜や、学内で飼養している乳牛の診療を行っていた。学生が問診を行い、担当教員やレジデントとディスカッションをしながら治療方針を決めて、治療を行っていた。その他、毎朝の搾乳・エサ当番や、繁殖・肉牛ローテーションと合同で行う症例検討会にも参加した。
・分業化が進んでいて、学生が行うのは診断・治療行為のみ。
・学生自身が問診を行い、治療方針を決めている。
・ディスカッションの時間が多く、活発に行われている。
・施設が充実している。
・往診サービスや、肉牛のローテーションと比べると患畜数が少なかった。
ということが印象に残った。

(3) 2013 年 9 月 11 日
Beef Medicine　肉牛のローテーションに参加。
主に学外からの患畜（肉牛・小反芻獣）の診療を行っていた。乳牛に比べると、患畜数が多く、学生は各々で診察を行っている印象をうけた。

4. 目的の達成度・目的が達成できなかった場合の理由

・米国の獣医大学については、この実習を通して十分に知ることができたと思う。よくアメリカの獣医学は進んでいると聞くが、日本とアメリカそれぞれに別の良い部分があることが分かった。今まではアメリカの獣医学生は、日本の獣医学生に比べて臨床経験をたくさん積んでいるというイメージがあったが、全員がそうだというわけではなく、とくに大動物（牛）に関しては日本の学生とあまり変わらないのではないかと感じた。

・英語や知識に関しては、Large Animal Ambulatory System にいたときは、自分の馬の臨床知識が全然足りないことを感じた。もっと勉強しておけばよかったと思った。その他のローテーションでは内容を理解できる部分もあったが、寄生虫の名前、薬品の名前、麻酔や手術の手技の名前がすぐにはででこなかったため、ディスカッションで考えてしまうことが多かった。会話が速くて聞き取るのが大変だった。

5. 目的以外でできた良い点

・今回はホームステイだったので、ホストファミリーと多くの時間を過ごすことができてとても楽しかった。同行した伊藤さん、高山さんとはステイ先が違ったのでお互いのステイ先を行き来したり、一緒に出かけることができて嬉しかった。自分のステイ先の犬がかわいかった。

・乳牛ローテーションは他の科に比べて、団体行動が多く全体的にゆったりとした雰囲気だったので、ローテーションメンバーと授業以外のことについても少し話すことができた。そのおかげでオーバン大学での学生生活を少し知ることができた。

ホストファミリー　Dr.Kuo, Ms.Kuo

・今回オーバンへの研修留学に参加して、充実した楽しい夏休みを送ることができた。参加して本当に良かったと思います。岩手大学の先生方、オーバン大学の方々、農学部事務の方々本当にありがとうございます。

6. 次年度への提言

・ローテーションは各科ごとに内容はもちろんのこと、その雰囲気も大きく異なる。そのため、各科についてどのような先生がいて、どのような内容の実習を行っているのか、雰囲気はどのような感じなのか、情報をまとめていけば、次年度以降より自分の興味のある分野に近いローテーションを選ぶのに役立つのではないかと思った。

・イミグレーションでは、担当の人にもよると思うが渡航目的を「留学」と言ってしまうと止められる可能性があるので工夫が必要だと思った。（行先をステイ先の住所にして、観光と言う等）

・オーバン大学の担当の方と連絡がとれるようになったら、なるべく早く連絡をとったほうがいいと思った。実習に関しては、せっかくの機会なので要望があれば遠慮せず伝えたほうがより楽しめると思った。

7. その他

今回、木崎先生、板垣先生、ラーマン先生、オーバン大学でお世話になった Dr.Givens、Dr.Kuo、Ms.Kuo、小百合さん、Dr.Newcomer、ローテーションの皆様、研究室の皆様、農学部事務の方、その他たくさんの方々に支えて頂いて無事プログラムに参加することができました。とても充実した時間を過ごすことができました。

本当にありがとうございました。